

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	国際ウミガメ会議への参加と調査地選定のための予備調査
氏名 Name	田嶋 宏隆
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	農学研究科・応用生物学専攻・修士2回生
渡航国 Country	タイ
渡航日程 Travel schedule	2024年 3月 23日 ~ 2024年 4月 1日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

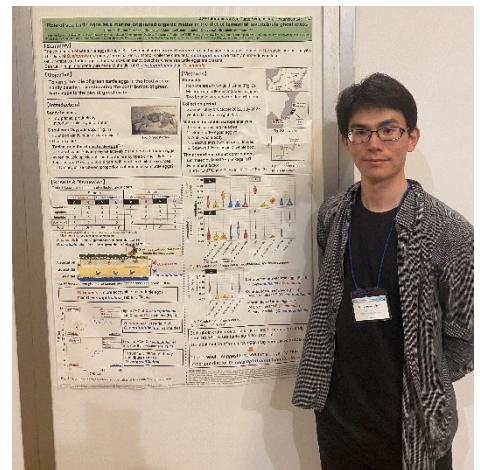
国際ウミガメ会議（International Sea Turtle Symposium）は世界中からウミガメの研究者が一堂に会する国際会議である。報告者はウミガメ卵がその捕食者の餌としてどれほど寄与しているのかを安定同位体比分析を用いて明らかにすることで、ウミガメ卵が産卵地である砂浜の食物網にどのような影響を及ぼしうるのかを研究している。そのため、関連分野を専門とする世界中の研究者と議論を行い、最新の知見を収集する場として、本会議はまたとない機会であると考え研究発表を行いたいと考えた。本会議で聴衆と活発な議論が行いやすいポスター発表を行うことで、英語による発表経験を積むとともに、申請者自身の研究について海外の研究者と広く議論を行うことを目的とした。

また、本会議の今回の開催国であるタイではウミガメ卵の捕食者・捕食状況について論文化されている研究が少ないため、本会議で現地の研究者から直接話を聞くことで最新の状況について知ることができると期待された。更に、報告者は将来的に自身の研究を海外の調査地にも展開したいと考えている。その調査地の候補としてタイを検討するにあたり、現地のウミガメ研究機関を通じてタイ国内の産卵地や研究施設を実際に訪問することを計画した。

成果 Outcome

1. 国際会議での発表および研究者との交流

報告者は“Role of sea turtle eggs as a marine originated organic matter in the diet of terrestrial invertebrate ghost crabs”というタイトルでポスター発表を行った。コアタイムは3月26日の16時30分から17時30分の1時間のみであったが、3月27日、28日にも多くの研究者が報告者のポスターが来訪し、研究内容について議論を行うことができた。中でも寄与率を推定する際に用いるパラメータである濃縮係数をどのように仮定することが望ましいのか、季節間で採集個体数に違いがあるスナガニについてデータに一般性を持たせて比較するにはどうすればよいのかなど、今後研究を進めていくうえで重要となる部分について質問やコメントをもらうことができた。加えて、このポスターセッションでは海外のウミガメ産卵巣における卵の捕食事例に



報告者と発表ポスター

回の件は報告者の想定が甘かったと言わざるを得ない。しかし同時に、報告者自身の研究はまだまだ新規性があり、海外展開を行っていく余地が十分にあることが示されたとも言える。今後は新規の調査地開拓ということも視野に入れつつ、現地で協力を依頼できそうな各国の研究者や研究機関とのつながりを構築していくことも必要であると考えている。

そして今回の渡航全体を通して、英語を用いたコミュニケーションの重要性と、自身の英語力の不足を痛感した。もちろん、ポスター発表の準備は時間をかけて行ったため、用意した内容を伝えることは比較的容易であったと感じる。一方で、想定外の質問に対して自分の考えを表現することや、外国人同士の会話スピードについていくことは難しい場面が多かった。報告者の英語力がもっと高ければ、自身の研究はもちろん、他の発表者の研究内容についても、より深い議論ができたはずである。このことに関しては非常にもどかしく、悔しい思いをすることが多々あった。今回の経験を糧として報告者の英語力を向上させることも必須の課題であると考えている。